

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-amic.com/>
 AMDA 兵庫
http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/

2016年1月25日 VOL.39 第276号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 □座名:特定非営利活動法人アムダ

2016年
冬号

冬

救える命があればどこへでも

2016年新春の挨拶

AMDA グループ代表 菅波 茂

新春明けましておめでとうございます。
 本年もよろしくお願ひ申し上げます。

新春の夢は、AMDA が相互扶助の啓蒙普及のためにお世話をしている三つのプラットフォームの推進と連携です。一つ目はAMDAの平和の定義に基づいた、人道支援のプラットフォームである「世界平和パートナーシップ (GPSP: Global Partnership for Sustainable Peace)」。平和構築、生活支援、教育支援、健康増進の4分野で構成されます。二つ目は高知県知事と徳島県知事との協定に基づいた「AMDA 南海トラフ対応プラットフォーム」。広域自治体連携を基盤とし、国内外の医療機関が参加するもので、相互扶助の精神により海外の災害にも寄与するものです。そして三つ目は、岡山県国際貢献推進条例に基づいた、国際医療貢献フォーラムから昇華予定の「国際医療貢献プラットフォーム」。産官学金連携により国際貢献、人財育成、地域振興を推進するものです。

これら三つのキーワードは「相互扶助」で、実現のためには海外の団体との協力関係が不可欠です。特にアジアには多くの優れた個人や団体が多く、相手にできる限り「NO」と言わない優しい精神風土があります。その尺度である「裏切らない、だまさない、助け合う」は民族、宗教、文化を超えた普遍性です。

AMDAは1994年に「西のジュネーブ、東の岡山」構想を提唱。岡山国際貢献トピアの会として「岡山貢献NGOサミット」を12年間開催し、岡山県、岡山市、倉敷市など多くの団体の参加が得られ、AMDA 多国籍医師団や宗教者NGOネットワーク(RNN)等が発足する機会となりました。西のジュネーブとは「人権」にもとづいて人道支援を行う国連機関や欧米のNGOの集積地、東の岡山とは「相互扶助」に基づいて人道支援を行うアジアなどのNGO/NPOの集積地を意味します。この両者を結ぶのが2006年にAMDAに認められた国連経済社会理事会総合協議資格であり、国連諸機関に対する政策提言権です。さらに2009年スイス・ジュネーブで開催された国連NGO総会で「スリランカの医療と平和」について政策提言をしました。そして2016年。機は熟し、三つの相互扶助プラットフォームの連携による活動実績をもとに、政策提言を国連諸機関にできる状況にあると思います。

さらにこれらの構想の継続に不可欠なのが次世代の人財育成です。先の三つの相互扶助プラットフォームは人財育成プログラムの受け皿として、大学教育等の人財育成プログラムを補完できます。

冒頭に掲げた三つのプラットフォーム形成には、多くの人たちの善意と支援がなくては不可能でした。これらが次世代の人財育成の場を提供し、関与できることは最大の喜びです。

2016年の年頭にあたり

AMDA 理事長 成澤 貴子

2015年にいただきましたご支援への感謝とともに新年のご挨拶を申し上げます。

本年も緊急救援で幕が開けました。フィリピン台風27号の被災地支援活動を12月に実施し、年が明けてから派遣看護師が帰国しました。温暖化により、毎年のように12月に台風が発生。寒い時期の台風は勢力が強く、甚大な被害をもたらしています。日本からの派遣看護師はフィリピンで「皆が休みたいクリスマスの時期に、はるばる日本から支援に来てくれてありがとう」と被災者や関係者の方々からお礼の言葉をいただきました。このお礼の言葉は、AMDAの活動をご支援くださる皆様へのものです。皆様からのお気持ちを被災地に届け、そして被災地の方々の言葉をご支援くださった皆様にお届けする。基本を大切に「相互扶助」の精神で2016年も活動してまいります。一層のご支援をお願い申し上げます。



アフガニスタン北東部・パキスタン地震緊急支援活動のフォローアップ

2015年10月26日、アフガニスタン、バダクshan (Badakhshan) 州にあるヒンドークシュ山脈を震源にマグニチュード7.5の地震が発生。アフガニスタン、パキスタン両国に大きな被害をもたらしました。AMDAは、すぐに地元協力者であるパキスタンの現地NPOのNRSP (National Rural Support Programme) とAMDAアフガニスタンと連絡をとり、地震被災者支援を行うことを決定しました。

パキスタンにおいては、NRSPと協力して特に174軒の家屋に被害があったカイバル・パクトウンクワ(KP)州マルダー

ン(Mardan) 県ファティマ(Fatima) 地区において、経済状況が厳しい4世帯を対象に建築資材を提供しました。建築資材を受け取った被災者は11月中旬から12月末までに家屋の修理を行いました。働き手不足や経済的理由でまだ修理中の家屋もあります。修理を終えた人は、「今回の地震により多くの経験をしましたが、自分を憐れむのではなく、神様、家族、そしてNRSPとAMDAに感謝しています。2ヶ月間近隣の家にお世話になりましたが、支援していただいた建築資材を使って2部屋を再建し、家族で自宅に暮らせ



建築資材引き渡し

るようになりました。」と話されました。

アフガニスタンでは、AMDAアフガニスタンが被災地の現地調査を行ったものの現地の事情により被災地での支援活動を見合わせており、今後も被災地の状況を注視していきます。

GPSP (世界平和パートナーシップ) 医療と魂のプログラム (ASMP)

GPSP (世界平和パートナーシップ) 医療と魂のプログラムは、AMDA が築いてきた「開かれた相互扶助」にもとづく広範囲かつ総合的なネットワークに、宗派・教団を超えた宗教指導者及び多様な文化的背景をもつ多くの方々にご参加いただき、ともに過去から学び、世界の平和を祈り、国際社会に平和の尊さを提唱する事業です。第二次世界大戦の犠牲者には、宗教者による慰霊祭を、そしてその家族には AMDA の医療サービスを提供する、宗教者と AMDA の合同事業として 2000 年より行ってきました。この慰霊祭は 2005 年より災害犠牲者への慰霊を加え、これまで 13 のアジアの国と地域、75 か所で行われ、参加者は約 1 万人になりました。尚、宗教者の皆さまは自費でこのプログラムにご参加いただいております。

2015 年 9 月 10 日 モンゴル・ウランバートル ガندان寺

日蓮宗全国社会教化事業協会連合会顧問
東京都 春慶寺 住職 齋藤堯圓

モンゴルでの慰霊は、モンゴルと所縁のあった父の悲願でした。私は、10 年以上前から父から預かったモンゴルとの絆をもとに仏縁を頂いてまいりました。羅什訳法華経のモンゴル語訳日蒙共同事業は、立正大学、身延山大学、国立公文書館、モンゴル公文書館、モンゴル国立大学協賛で、私が調整成就させていただきました。2012 年より毎年、日蓮宗宗務総長代行としてモンゴルでの慰霊祭に参加しており、AMDA と大本様との慰霊祭への参加は 3 回目となります。宮沢賢治の「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉があります。これからは、父の想いとともにもモンゴルと日本両国の更なる親交と、世界が二度と

戦火を交えることのない恒久平和を願い、命を尊び、すべての人々に合掌をしたいと思います。

大本モンゴル本部事務局長
ダルハジャワ・バンザラグチ

9 月 10 日の第 8 回平和祈願祭にガンダン寺院と日蓮宗の皆様とともに、祈る機会に恵まれたことを嬉しく思います。ハルハ河戦争から 76 周年になります。日本とモンゴルの国交が樹立して 40 年過ぎた今、両国の友好関係がなお一層深まり、お互いの文化を尊重しながら「相互扶助」の精神で世界平和へのメッセージを発信できる関係になったと思います。

二度とその戦争が世界的に起きないように、残念ながら現在も起きている戦争が一刻も早く収まるように、大本



本部、大本モンゴル本部が毎日お祈りしています。

これからもガンダン寺、日蓮宗、AMDA の皆様とともに世界平和のために全力を尽くして行きたいと思います。人と人がお互いに想い合い、人を愛し、人に愛される世の中がはやく訪れるように。

■ご参加いただいたその他の宗教者の方々：
大本モンゴル本部 バンザイ様、アンハ様

2015 年 10 月 29 日 スリランカ、コロombo

GPSP 世界平和パートナーシップ
医療と魂のプログラム代表世話人
黒住教副教主 黒住宗道

戦後 70 年と AMDA 医療と魂のプログラム開始 15 周年を記念して、GPSP「医療と魂のプログラム」が、2015 年 8 月から 11 月にかけてモンゴル、スリランカ、インドネシア、フィリピンの 4 か国で行われました。スマトラ島沖大地震・大津波犠牲者のための合同慰霊祭で 2005 年にスリランカを訪れた私は、10 年の節目に NPO「サルボダヤ運動」、AMDA スリランカ、AMDA 本部の

共同開催で行われた今回の式典に参列しました。植樹式の後、サルボダヤ運動事務総長の挨拶で開式。150 人の参加者とともに、仏教・ヒンドゥー教・キリスト教・イスラム教の祈りに続き、私も神道式の慰霊を行いました。最後に、サルボダヤ運動の創設者 A.T. アリヤラトネ博士は、世界平和と健全な環境維持の大切さを次世代の若者に訴えました。私も本プログラムの代表世話人として、今回植樹したマンゴーの木が実を結ぶように、スリランカの平和への取り組みという種が、人々の温もり



によって成長・結実し、世界の平和へつながるよう祈り続けたいと思います。

■ご参加いただいたその他の宗教者の方：
黒住教 池田光男様

2015 年 11 月 19 日 インドネシア スラウェシ島

静岡県 臨濟宗一溪寺 大屋昌基

インドネシア慰霊祭はマカッサル市内のインドネシア軍の施設内での開催となりました。ヒンドゥー教、イスラム教、カトリック、プロテスタント、地元仏教、各宗教者とともに、テロと戦争に対する世界平和の祈りを順番に捧げました。

私たちは戦後 70 年の慰霊法要をさせていただき、日本人として懺悔の心



で臨みました。

各宗教の祈りを聴いていますと、地



球にとってテロや戦争は人間の罪であると強く感じる事ができました。懺悔なくして祈りはありません。すべての人間に懺悔の心が必要なのです。

AMDA ボランティア 矢部賢次

スラウェシ島は、私の父（故人）が戦後2年間生活していた島である。父が遠く離れた南の島で生活を強いられていた本当の理由は分からないが、私には話せない特別の理由があったようだ。おそらく飢えと郷愁の日々であった

と想像できる。一度は訪れたいと思っていたところ、AMDAが島で慰霊祭を行うという情報を頂き妻の朝子と参加した。

日本の僧侶の御詠歌には120名の参列者一同感銘を受けた様子であり、厳粛で完璧な慰霊祭となった。幸い父は地元の方々のお力添えで生きて帰国で

きたが、多くの日本の方が亡くなっている。マカッサルの空気を胸いっぱい吸い、夕日を仰いだ。慰霊祭に参列できたのは、多くの皆様のお蔭と心から感謝申し上げる。

■ご参加いただいたその他の宗教者の方々：
臨濟宗 山内正樹様、魚住和寛様、鮎川直樹様

2015年12月1日 フィリピン レイテ島

天理教道竹分教会 教会長 平野恭助

フィリピンのレイテ島タクロバンにて、GPSP 慰霊祭を現地のカトリックと合同で執り行わせて頂きました。2年前レイテを襲った台風30号（フィリピン名ヨランダ）によりフィリピン国内で6千名以上の死者が出ましたが、そ

の一番被害の大きかった地区で慰霊祭を行うことは大変意義深いものでした。人は魂を有しています。その魂を結ぶものは我々の日々の心遣いであります。GPSPにおける慰霊ならびに、お互いの幸福を祈り助け合うという心が、国境を越えた人間の絆を築いてくれると信じます。



■ご参加いただいたその他の宗教者の方々：
天理教 関根慶三様、向井正志様、
ジャイジェーン・チラバ様

長期事業—インド ブッダガヤ AMDA ピース・クリニック

2009年に開院したAMDA ピース・クリニックは、インド、ビハール州ブッダガヤにあります。この地は仏教の聖地として知られ、世界遺産の大仏塔を中心に各国の仏教寺院が立ち並んでいます。同クリニックは仏教施設しか建設が許可されない地域にあることから、岡山市太生山一心寺様のご協力のもと、お寺付属の病院として慈善事業を行う信託財団を設立して運営しています。



記念式典にご参加いただいた方々

開院当初はアーユルヴェーダを中心とした診療を行っていましたが、インドの最貧州といわれる同州では自宅出

産が多いことから、2014年10月、母子保健に特化した活動に転換しました。現在は現地看護師、ローカルアシスタント、事務局スタッフ計3名を中心に、地域の妊産婦の自宅を毎日訪問し、栄養と保健の指導を無料で行っています。加えて第2、4日曜日には、地元の経験豊富な産婦人科医による妊婦健診を1回20ルピー（約40円）で行っています。これまで72名の母親が同クリニックに登録し、現在も50名の母親が利用しています。第1子に続きクリニックで第2子の出産を迎える妊婦もいます。

さらに2015年10月2日から2日間、地元ロータリークラブやライオンズクラブのご協力のもと、台湾IHA（International Health Action）と合同で、無料の歯科診療を実施。台湾から派遣された歯科医師、歯科衛生士、調整員は、同クリニックのスタッフ、地元の歯科医、AMDA本部職員とともに、クリニック利用者を含む大人と子どもを診察し、100人以上の子ども達に歯



現地での母子保健事業の様子



台湾IHAとの合同無料歯科治療

科衛生教育を行いました。この経験を踏まえ、2016年1月からは、月1回の歯科検診を予定しています。

AMDA ピースクリニック開院7周年記念式典を挙行

2015年11月30日、同クリニックの開院7周年記念式典が行われました。クリニックに隣接する太生山一心寺インド分院で行われた式典には、岡山市の妙楽寺ご住職の北山孝治様、太生山一心寺ご住職の中島妙江様を中心に、AMDA グループ菅波代表、AMDA インドのアーユルヴェーダ専門医ミナクシ先生、AMDA本部職員に加え、一心寺ご信徒の皆さまや地元関係

者が参加しました。

北山ご住職は、挨拶の中で「愍（みんな）衆生（しゅじょう）故（こ）、生（しょう）此（し）人間（にんげん）」（民衆を愍（あわれ）むが故に此の人間に生まれたり）というご自身が一番好きなお経の中の言葉を紹介されました。

式典終了後には近隣のお年寄りの施設や、スジャータ村の孤児院の子ども達70名に毛布を寄贈しました。



お年寄りの施設に毛布を寄贈する菅波代表

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第7回

サーダー・A・ナイーム医師

日本バングラデシュ友好病院院長 (JBFH) AMDA バングラデシュ支部長



第7回目となる今回は、2015年10月11日に岡山市で行われた「第3回国際医療貢献フォーラム」に基調講演者として招へいされた AMDA バングラデシュ支部の支部長、サーダー・A・ナイーム医師にお話しを伺いました。

文部科学省奨学生としての日本留学

AMDA ナイーム先生のご経歴の原点は、日本の文部省（現文部科学省）の奨学金で日本に留学されたことだと伺いましたが。

ナイーム そうです。私がダッカ大学医学部を卒業した1985年は、卒業後に欧米諸国へ留学して専門職を学ぶことが主流でした。私もそのような留学を目指していたのですが、ダッカ大学の歴史学部の教授が（後に私の義理の父になるのですが）、奨学金制度のある日本への留学を薦めてくれたのです。第二次世界大戦後、素晴らしい経済発展を実現した日本から学ぶことは貴重だと。当時はメールもインターネットもない時代。何とかコンタクトを取ろうと、資料集の中から独力で肝臓、胆嚢、膵臓の外科医を探し、第一人者の東京大学の教授に手紙を書きました。するとその教授は、面識もない私の熱意だけを評価して推薦状を書いてくださり来日が叶いました。そして1987年から5年半の間、東京大学第二外科で、日本でもまだ新しくした腹腔鏡手術の技術習得に邁進しました。この技術を母国でも広めることが自らの使命と確信した私は1991年、母国の外科医を日本に招へいし、東大で私の手術の様子を見てもらいました。その年末、母国の外科学会と協力して、母国でも手術の生中継をしました。次の日の新聞各紙で、私の手術が「新しい医療技術の幕開け」と紹介されたことは今でも覚えています。

AMDA という魅力的な名前

AMDA AMDA とはどこで出会ったのですか。

ナイーム 1988年末、東大の手術室の看護師さんが、私に一枚の英語の会報誌を渡してくれました。「Association of Medical Doctors of Asia」—この名前に私の心は震えました。アジアの医師である自分もこの一員ではないかと。以来菅波代表との手紙のやりとりが始まり、1989年大阪で行われたAMDA インターナショナルの会議に参加したことがき



日本バングラデシュ友好病院

かけでAMDA バングラデシュ支部が発足しました。支部の最初の活動は1991年4月、バングラデシュに流入したミャンマー難民の救援です。私がAMDAのチームリーダーだったので、多くの海外のNGOが停留を余儀なくされる中、AMDAの活動許可は1時間であり、このプロジェクトは大きな成果をあげました。この時まさに、菅波代表の「活動は常に現地の価値判断を優先させる」というローカライニシアチブ（現地主導）を最大限に発揮できた瞬間だったと自負しています。

自分にあったのは、技術と「サムライ精神」だけ

AMDA 日本での留学経験とAMDAとの出逢いをどのように活かしてこられたのですか？



病院開所式に出席した当時の大統領（写真中央）と菅波代表（同右）

ナイーム 1989年、私は卒業後の計画について菅波代表に相談したところ、母国に小さい手術室のある病院を作らないかと勧められました。AMDAが運営する病院にしようかと考えましたが、NGOというのは団体ですから、責任の所在が明確ではありません。そこで、日本の最先端技術を母国で活かすべく、バングラデシュから日本に留学していた3人の医師と協力して、病院を建てることにしました。しかし、卒業直後の身には、資金も担保もありません。この時自分たちにあったのは、日本で学んだ技術と「サムライ

精神」だけ。しかし、菅波代表は、私たちの技術とサムライ精神を担保に、12年返済ローンで資金を貸してくれました。そして1994年、菅波代表自らが名付けられた、「日本バングラデシュ友好病院」の開所式が、当時の大統領出席のもと行われました。日本とバングラデシュ間の初めてのジョイントベンチャーだったからです。代表は資金面で苦しかった私たちを信頼して、貸付融資をしてくれました。けれど、銀行の利子が返せるかどうかは分からなかったし、病院がうまくいくかどうかも分からなかった。そんなリスクを超越する信頼に応えるため、私は必死に働きました。そして8年間で、すべて返済を終えました。開業当初は小さな30床の病院でしたが、現在は100床の総合病院にまで発展しました。

これからの国際医療貢献

AMDA これからの国際貢献に期待することは何ですか？

ナイーム 私は、日本の方々の税金である文部科学省の奨学金、そして菅波代表からのローン、各機関の協力をいただいたことで、母国に貢献することができています。文部科学省の留学生への奨学金総額は相当な額になります。しかし残念なことに、卒業後、彼らは、技術を活かせない母国には戻らず欧米諸国に活躍の場をもとめます。これは実にもったいない話ではありませんか。日本で勉強した海外の学生が母国に貢献することで両国間の絆が生まれ、本当の奨学金の意義があるというものです。母国に帰った学生たちを支援する仕組みが今、求められていると思います。そして、若い世代には、「待つべき時間」というものがあるということをお伝えしたいですね。忍耐が必要です。急ぐことはそこに妥協が生まれます。様々な人々のご縁によって自分が活かされる場所があるという謙虚さをもつべきです。自然もそうです。花が咲くまでに時間と土が必要のように。

AMDA ナイーム先生の撒かれた種が、バングラデシュの未来に咲くのですね。楽しみにしております。ありがとうございます。

ネパールテレビ局 日本での研修

2015年4月25日に発生したネパール中部地震緊急救援のため現地に入ったAMDAグループ菅波代表は、ネパールのテレビ局「Image Channel」の取材を受けました。今回は同テレビ局から3名を日本に招待。11月16日～23日の8日間「日本の防災と復興」と「災害時のメディアの役割」を学ぶ研修プログラムを、山陽放送様のご協力により実施することができました。

一行は、大阪、岩手、岡山の放送局を訪問。テレビ局ごとにある災害対応マニュアルを知り、そこで緊急速報用の原稿の準備、緊急取材の役割分担、取材で被災地に入る時に必要な健康管理キット、食料品の備蓄などの必要性を学びました。

岡山市危機管理室の方からの講義では、地震の被害を最小限に抑えるため、政府や自治体をはじめ、あらゆる組織が防災訓練に積極的に取り組んでいることを聞きました。国民の防災意識を高めることが重要であること、子どもや地域住民を対象に防災訓練や防災教育に力を入れていることは、ネパールでは是非伝えたいこととしてネパールのテレビクルーの心に残ったようでした。



岡山西消防署での講義の様子

東日本大震災の被災地の一つであり、AMDA復興支援の活動拠点でもある岩手県大槌町を訪れた際には、被災者が孤立しないように、「AMDA大槌健康サポートセンター」で実施している活動、被災者の声、復興の現状を聞きました。ネパールでは、地震から早や7か月が経過し、瓦礫もそのまま残っていますが、国内で被災地や被災者の報道も少なくなり、忘れられつつあります。

帰国後の12月13日、3人は社内で「報道人としての防災認識を高める」講義を開催し、日本での研修で学んだことを発表。災害に備えた局内での防災訓練、災害時の準備を、一日も早くスタートさせることが決まりました。今後は国民の防災認識を高めるため、日本での研修内容を番組にして放送する予定です。



研修に参加したネパールのテレビクルー

アヌバ氏（制作部長）：日本人の防災意識の高さに感動した。ネパールの子供たちの防災意識を高める番組を作成したい。

タクル氏（レポーター）：日本の報道スタッフの災害時の仕事ぶりに感動した。自分も一人の報道人として災害の時に人々が混乱しないような報道ができるように努めたい。

ナビン氏（カメラマン）：自分が撮った映像が人々に伝わるようにこれからも頑張りたい。

寄稿

彼らは今どうしているのか？

～ネパール大震災で障がい者となった方～

理学療法士 西嶋 望（ネパール在住）

ネパールは2015年9月20日公布の新憲法に反対する抗議としての経済封鎖が公布日直前からネパール南部からインド国境付近で続いております。ガソリン、ガス、医薬品などの流通を妨害され、ネパールの一般市民を苦しめ震災後の復興にも大きく影を落としています（2015年12月現在）。

今回の震災で脊髄損傷となられた20歳の女性が身を寄せる親類宅に、モニタリング調査を兼ねた訪問リハビリテーションをさせていただいたので紹介したいと思います（右の写真）。



彼女は最初の震源地に近いラスワ郡という山間部の自宅で被災し、第11胸髄損傷となりトリブヴァン大学教育病院（TUTH）へ搬送されました。この女性の理学療法に、私はAMDAの活動として関わっていました。車いすが必要なほど重度の障がいが残りましたが、脊髄損傷リハビリテーションセンター（SIRC）でリハビリテーションを受け、車いすの使い方も習得。その後、退院し現在の親類宅にて療養生活をしておられました。

しかし被災後7か月の訪問時、その車いすはベランダの隅に片づけられておりました。バリアの多い環境で自由に動けない状況では、せっかくの車いすも使えなかったのです。すぐにお体のサイズを測り、AMDAのプロジェクトで現地製造している車いすを製造担当者に依頼しました。体の状態については、特に関節が硬いなどの問題は見られず「ベッドから離れる生活」を最初の目標とし、そのための環境設定をしました。足りない物は「生活福祉用具支援」として用意する事とし、最後は生活のための助言をお話しました。継続して訪問リハビリに伺うこととしました。

彼女の瞳は力強くTUTH入院中も笑顔が印象的でした。今は不安でいっぱいと思いますが、人生を再び歩み始めるサポートができれば、彼女は将来のネパールの障がい者に勇気を与える、そんな存在になると思います。AMDAによる障がい者支援により訪問リハビリが可能となりました。AMDAのスタッフをはじめ、AMDAをご支援いただいております皆様へ心より感謝申し上げます。

フィリピン台風24号被災者に対するフォローアップ活動

2015年10月18日にフィリピン・ルソン島に上陸した台風24号は、島の中部に甚大な被害をもたらしました。AMDAは23日にルソン島西海岸のパングシナン州リンガイエン町に看護師を派遣し、緊急救援として医療活動と食糧支援を行いました。

同年12月3日にはフォローアップとして、AMDA看護師が再度パングシナン州リンガイエン町を訪れ、前回、緊急救援活動を行ったアプラヤ（Aplaya）地区内にあるサンホゼ（San Jose）地域に、井戸用手押しポンプ8個、パイプの購入と取り付け費用をAMDAが支援することが決定しました。サンホゼ地域の人々は、少しの雨でも浸水する場所に住んでいましたが、最近、地域住民ごとアプラヤ地区

に移住し始めていたところに台風24号が襲来したとのこと。家の修繕に必要な費用、労力、時間が掛かる中、地域の資金は不足しており、新しい井戸の設置ができず、数が足りていない状況にありました。今回の支援により、井戸の数が増え、水が十分に使えることで衛生状況の改善も期待されます。井戸設置の支援をうけたサンホゼ地域会長からは、「少し早めのクリスマスのようだ。ありがとう」という言葉をいただきました。

同日、前回の緊急救援で支援を行ったワワ（Wawa）地区も訪問。地区保健師に話を聞くことができました。「実は、AMDAが緊急支援で来てくれたときに、私も支援を受けて本当にうれしかった。ありがとう。水が引いた後は、畑にとう



地域の会長と握手を交わす若本看護師

もろこしやなすが新たに植えられた」と明るく語っていただきました。現在は水が完全に引き、畑や田んぼに農作物も植えられており、復興してきている様子が見受けられました。

※フィリピン台風27号の緊急救援活動は、2015年12月23日～29日に実施しました。詳細はAMDAホームページをご覧ください。

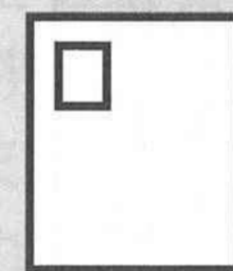
2015年10月～12月の動き

〈講演〉	内容	主催
10月23日	異文化交流「ネパールの紹介と地震災害の様子」	ノートルダム清心女子大学附属小学校 (独)国際協力機構 関西国際センター 岡山県立倉敷中央高等学校 倉敷市立倉敷工業高等学校 岡山市立西大寺南小学校 徳島県海部郡美波町・美波町自主防災会連合会 多文化関係学会 岡山救急医療研究会第17回学術集会 倉敷翠松高等学校 看護科 岡山三友会 大学コンソーシアム岡山
10月24日	平成27年度 JICA ボランティア秋募集 体験談&説明会「JICA ボランティア帰国後の進路～国際協力の仕事」	
10月30日	社会人講師活用事業「国際看護」	
11月4日	開校記念講演会「アムダの活動内容・ボランティアについて」	
11月10日	6年社会科「アムダの医療支援活動について」	
11月12日	美波町自主防災会連合会視察研修「アムダの活動内容・南海トラフ巨大地震対応プログラムについて」	
11月14日	多文化関係学会第14回年次大会「救える命があればどこまでも～多文化世界と繋がる支援活動の最前線～」	
11月14日	岡山救急医療研究会第17回学術集会 パネルディスカッション	
11月24日	国際看護・災害看護「国内外での災害活動及び各国との連携や活動の実際について」	
12月3日	岡山三友会 講演会「アムダの活動を通して見えてきたこと」	
12月15日	平成27年度後期双方向ライブ型オムニバス授業「ボランティア論」	
〈大学講義〉	内容	
10月1日・8日・15日	災害看護	相生市看護専門学校 四国医療専門学校 順正看護専門学校 岡山大学
10月2日・9日	国際看護	
10月21日	災害看護	
12月11日	公衆衛生看護技術Ⅱ	
〈イベント開催および参加、協力〉		
10月10日・11日	国指定重要文化財 旧大國家住宅 一般公開 (アムダパネル展示)	
10月11日	第3回国際貢献医療フォーラム (主催：岡山県、アムダ)	
10月21日～25日	第41回備芸会展・アムダパネル展 (主催：備芸会)	
11月7日・8日	第2回スポーツレスキュー2015 (主催：SPORES2015 実行委員会 後援：アムダ)	
11月9日	AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム 輸送と通信のシミュレーション (主催：アムダ)	
11月14日～16日	復興グルメ F-1 大会ボランティアバス (主催：アムダ)	
11月15日	第11回復興グルメ F-1 大会 (主催：第11回復興グルメ F-1 大会実行委員会、復興グルメ F-1 運営事務局)	
11月15日	総社市防災訓練 (主催：総社市)	
11月21日～23日	第14回小春日和の書展 (アムダパネル展示) (主催：松濤書院)	
12月5日	第3回食糧と人道支援シンポジウム「南海トラフ地震津波に向けた食糧支援」(主催：アムダ)	
〈インターン〉		
12月1日～	高木 祐志	
〈AMDA 中学高校生会活動〉		
10/25・11/8・12/20 中学高校生会 定例会		
〈学校関係・本部訪問〉		
10月26日	岡山県美作高等学校 (生徒1名、引率1名)	
11月9日	岡山理科大学 (2名)	
11月25日	岡山県立城東高等学校 グローバル D-1 (生徒6名、引率1名)	
12月10日	岡山後楽館高等学校 (4名)	

お詫びと訂正 ◇ 2015年秋号1ページ掲載の「支える喜び」シリーズで、岡山県洋蘭協会副会長の河野新一郎様のお名前に誤りがありました。お詫びして、訂正いたします。(誤)河野真一郎 → (正)河野新一郎

事務局よりお知らせとお願い

※多くの皆様からのご寄付、本当にありがとうございます。お名前の記載の誤りなどがございましたら、恐れ入りますが事務局までお知らせください。よろしくお祈りいたします。



※書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

東日本大震災復興支援事業

第11回復興グルメ F-1 大会 in 南三陸町 開催報告

2015年11月15日(日)、復興グルメ F-1 大会実行委員会と大会運営事務局の主催で第11回復興グルメ F-1 大会を、宮城県南三陸町ベイサイドアリーナ特設会場で開催しました。南三陸町での開催は、第4回大会に続き2回目です。

岩手県、宮城県、福島県の9つの地域から11チームが参加し、自慢の料理を提供しました。当日は町内外から約3000人の方々が来場。ステージイベントなども開かれ、会場は熱気に包まれました。

優勝は宮城県南三陸町志津川の南三陸さんさん商店街の「さんさんたこカ

ツバーガー」、2位は福島県南相馬市のTEAM南相馬【かしま復幸商店街】の「ボールになったチヂミちゃん」、3位は宮城県南三陸町志津川の神割観光プラザの「タコ味噌坦々麺」でした。



復興グルメ F-1 大会の Facebook 専用サイトでは、随時最新の情報を紹介しています。
<https://www.facebook.com/fukkogourmet>



なおこの大会開催に合わせて運行したボランティアバスに、岡山から約30人が参加。被災地の見学や研修、大会の運営補助を行いました。

次回の第12回復興グルメ F-1 大会におきましても、たくさんのご来場をお待ちしています。

AMDA フードプログラム

「食は命の源」をコンセプトに、アジア諸国へ有機農業の啓発と普及を目的としたプログラム。「アジア有機農業連携活動推進条例」を制定した岡山県新庄村野土路地区に2012年「AMDA 野土路農場」を開設。以来、フィリピンとインドネシアから農業研修生の受け入れや、新庄村とAMDAの職員が現地に出向き、有機農業の技術移転活動を行っています。

第3回 食糧と人道支援シンポジウム開催報告

2015年12月5日「第3回 食糧と人道支援シンポジウム～南海トラフ地震津波に向けた食糧支援」を岡山市北区の岡山国際交流センターで開催し、約30名が参加しました。

最初にAMDA支援農場代表世話人の竹内洋二氏から、一般社団法人子ども家運営委員会の小阪田徹代表と、特定非営利活動法人仙台北夜回りグループの今井誠二理事長に、AMDA支援農家からご提供いただいた支援米



贈呈式が行われました。

AMDAグループ菅波代表は、基調講演「AMDA 南海トラフ対応プラットフォーム～AMDA支援農家の役割と食糧支援の重要性」で、東日本大震災など緊急救援活動で行った避難所での炊き出しを通じ「被災者には温かい食べ物、普通の食事が不可欠」と言及。菅波代表が司会進行を務める「食と人道支援～起こりうる南海トラフ地震津波に備えて」と題したディスカッションでは、パネラーであるAMDA支援農場代表世話人の竹内洋二氏、同世話人の西村輝氏と赤木歳通氏、前新庄村長の笹野寛氏、生活協同組合おかやまコープ組織本部長の上甲啓一氏とともに、近い将来その発災が予想されている南海トラフ地震の食糧支援体制を議論しました。

■ 支援者紹介



2014年1月にフィリピン・ミンダナオ島ザンボアンガを襲った台風1号において、AMDAでは倉敷市の株式会社キッカワとともに現地で被災者支援活動を行いました。以来同社とは定期的に、食糧や生活物資の支援を地元協力者とともに続けてきました。2015年12月23日～25日、クリスマスに合わせて同地で地元の人たちのために、お米15kgを40袋配布しました。さらに、2016年1月中にも30袋を配布する予定です。

AMDA 野土路農場と新庄村の農産物を駐日外国公館へ贈呈

AMDAは2015年度の駐日外国公館表敬訪問の第一弾として12月21日、インドネシアとバングラデシュ大使館を訪問し、AMDA野土路農場と新庄村の農産物を贈呈させていただきました。

訪問時には新庄村の紹介を始め、AMDAフードプログラムや、有機農業の取り組みについて紹介しました。

いずれの大使館でも、深い関心を寄せてくださいました。さらに各国の農業事情を知ることができ、AMDAの取り

インターン紹介

高木 祐志



2015年12月から、約半年間インターンとしてお世話になっております。AMDA本部インターンに応募したのは、大学時代に国際協力を行う団体を結成し、バングラデシュで現地NGOと教育支援をしたことでNGO活動に興味を持ったことがきっかけです。AMDAが実施する緊急救援やフードプログラムを含めた多様なプログラムに魅力を感じ、運営の仕方等を学びたいからです。現在は日英翻訳やクラウドファンディング立ち上げを担当しています。スタッフの皆さんは親切で、日々貴重なご指導をいただいております。インターン終了後は、英国大学院への進学を予定しています。AMDAの活動に貢献し、また自身の成長につながる経験ができるよう、精一杯頑張ります。



インドネシア大使館農業担当官(右)と組みや日本の農業技術に寄せる期待の高さを感じられました。

災害時の医療支援に関する連携協定

2015年11月11日、「全国訪問ボランティアナースの会 キャンパス」様と「災害時の医療支援に関する連携協定」を結びました。神奈川県藤沢市のキャンパス本部にて、同代表の菅原由美氏と菅波茂 (AMDAグループ代表) による調印式が行われました。



第59回 2016春の洋蘭展「咲かせよう 美しい花、みんなの夢～AMDAとともに」

恒例の春の洋蘭展が、右記の要綱で開催されます。AMDAの活動を紹介するパネル展示があります。

岡山県洋蘭協会会員様による丹精込めて育てられた多数の洋蘭が、会場に一早い春の訪れを感じさせてくれそうです。他にも世界の珍しいランや東北支援の海産物等の即売など、盛りだくさんの内容です。



入場無料。

【日時】2月24日(水)～28日(日) 9時～17時(最終日は16時まで)

【会場】農マル園芸 吉備路農園 特設会場 (総社市西部、0866-94-6755)

【主催】岡山県洋蘭協会・日本蘭協会 東中国支部

【共催】AMDA

【問い合わせ】同協会(フジ・ナーセリー内) 電話: 086-277-8311